

令和5年度千代田学

千代田区から発信するサステナブルファッションの「自分ごと化」

－ 共立女子大学 －

目的

ファッション産業は全産業の中で2番目に水を消費し、世界の地球温暖化ガスの約10%を排出する環境負荷の大きい産業である。官公庁や企業でも様々な対策が検討されているが、消費者の行動が変わってゆくことも必要である。これまで、共立女子大学家政学部被服学科では、環境負荷の低い草木染めを用いたドレス作品の制作や、織物産地から発生する廃棄物からアクセサリーを制作するアップサイクル活動などSDGsの達成に資する研究・教育活動を行ってきた。本事業では、千代田区の居住者、在勤者、在学者（以下「区民」という）にサステナブルファッションを「自分ごと」として捉えていただく啓発活動を実施し、その効果を検証した上で、千代田区からSDGs推進の一助となる情報発信・提案を行うものである。

研究内容・結果

2023年8月8日(火)13:00-16:30に「千代田区で学ぶサステナブルファッション」と題して、講演会およびワークショップを共立女子大学にて開催した。講演会に32名、ワークショップに19名の区民が参加いただいた。講演会は、山梨県立大学の増田貴史特任教授をお招きし、「地域性の復権による衣服の高付加価値化」という演題で、地域の素材を用いて地域で循環する物づくりの新しい形および持続可能社会について解説いただいた。本学の宮武恵子教授からは、廃棄される寸前のジーンズや、産地から出る廃棄物、そして千代田区でも入手可能な様々な日用品廃棄物を材料に用いて、新しい価値を生み出すアップサイクル作品の事例や制作方法について紹介した。さらに、織物廃棄物（捨て耳）を用いたアクセサリーを制作するワークショップを行い、参加者にアップサイクル実践を体験していただいた。事後のアンケートでは80%以上の参加者が本事業を通じてサステナブルファッションに興味を持ち、実際に実践する気持ちが芽生えたと回答しており、本事業の成果を確認できた。



図1. 増田貴史氏による講演会の様子



図2. 宮武恵子教授による「暮らしに役立つアップサイクルファッション」の紹介



図3. 廃棄されるジーンズや、化粧品を再利用した色材、古着シャツ、捨て耳などを活用したアップサイクルファッションの例



図4. 織物産地の廃棄物である「捨て耳」を利用してイヤリングとキーホルダーを制作するワークショップの様子

考察・まとめ

本事業で企画した講演会に参加することにより、80%以上の参加者がサステナブルファッションの重要性に気づき、今後の衣生活に取り入れて行きたいと考えるようになった。現状について知ること、気が付くことの重要性を再認識した。今後もサステナブルファッションを実行する教育・研究を継続するとともに、啓蒙活動を行って行きたい。また、意識をすることはできても実際に行動するまでには若干のバリアがあると考えられる。今後は、実際に行動変容を引き起こすための啓蒙活動や、継続的な調査も必要と考えている。今後の課題としたい。